

文
書
目
録

例 言

一 収載順文書目録には、本書に収められた「歴代制度卷之一〜十四」中の全ての文書・記事などについて、番号を付し、掲載順に目録題をとり集録した。

一文書・記事などの題名については、原題はそのままとり、ないものは編集者が付した。
一 番号・発給年月日・題名を示した。

月の異称は漢数字に改めたが、正月・朔日・晦日などはそのまま残した。

一 参考として、校合に使用した刊本などの出典を示した。書名は以下の通りである。

〔原本史料〕 「御問條御答書写」(都城島津久厚氏所蔵)

「差杉来由私考」(東京大学史料編纂所所蔵)

「金山萬留」乾坤(東京大学史料編纂所所蔵)

〔刊本史料〕 旧記雑録前編(『鹿兒島県史料 旧記雑録前編』一〜二)

旧記雑録後編(『鹿兒島県史料 旧記雑録後編』一〜六)

旧記雑録追録(『鹿兒島県史料 旧記雑録追録』一〜八)

徳川実紀（国史大系『徳川實紀』）

徳川禁令考（創文社『徳川禁令考』前集・後集）

令条記（近世法制史料叢書2『御當家令條』）

御触書寛保集成（『御觸書寛保集成』）

御触書宝曆集成（『御觸書寶曆集成』）

御触書天明集成（『御觸書天明集成』）

御触書天保集成（『御觸書天保集成』上・下）

「首里王府仕置 御教条」（『沖繩県史料 前近代1』）

「薩陽落穂集」（『新薩藩叢書四』）

「経済録」（『日本經濟叢書卷六』）

「和漢名数」（『益軒全集2』）

『書経』

『礼記』

『鹿児島県史料 薩摩藩法令史料集一』 収載順文書目録

〔番号〕 〔年月日〕〔収載文書名〕〔参考文書〕

歴代制度 卷之一

武家諸法度

一 享保二年三月十一日

徳川実紀第八篇

旧記雑録追録三(七九七)

二 慶長二十年七月

徳川実紀第二篇

禁中並公家諸法度

三 慶長二十年七月

徳川禁令考前集一(二)

四 寛文三年正月二十九日

徳川禁令考前集一(七)

毎朔之御条書

五 宝暦五年八月十五日

旧記雑録追録五(一六八二)

六 天明七年四月朔日

七 天明七年正月二十九日

旧記雑録追録六(二五四八)

八 天明七年正月(二二五号文書と同文)

旧記雑録追録六(二五五〇)

御光訓

九 天明七年正月

旧記雑録追録六(二五五一)

一〇 宝暦二年九月(御条書毎朔弘め候事)

旧記雑録追録五(一一一八)

一一 大乘法華一部

の1 天文十三年三月朔日

の2 元亀元年二月吉日

の3 天正十三年六月二十日

一二 永禄四年十月吉日 諫議(島津忠良教戒条々)

旧記雑録後編一(一九〇)

一三 御訓戒以呂波御歌

旧記雑録前編二(二五〇九の2)

一四 (慶長十八年)九月八日(島津義弘書状)

旧記雑録後編四(一〇四二)

一五 寛永十一年十一月二十八日(島津家久教訓条々)

(一〇八号文書と同文)

旧記雑録後編五(七九五)

一六 元禄十五年六月二十五日(島津綱貴教訓条々)

(二〇〇号文書と同文)

旧記雑録追録二(一一三三)

国禁

一七 寛政二年五月七日(浮説申触禁止の事)

一八 延宝五年閏十二月二十四日(歳暮年頭祝物等禁止の事)

一九 享保十五年八月晦日(馬引の節無刀の事)

二〇 正徳二年十月十八日(桜島へ遊山等に差越まじき事)

二一 享保四年二月(生類盗取相慎の事)

二二 安永七年七月(鶏合禁止の事)

二三 安永五年七月(芝居へ他国より役者招呼停止の事)

二四 安永五年四月六日(弓鉄砲稽古に賭勝負無用の事)

二五 安永六年四月(鉄砲場多人数集、矢先争いせざる事)

二六 安永七年正月(虚無僧共不法の筋差押の事)

二七 幕府触書

の1 (安永三年)十月(浪人の事)

の2 (安永三年)十月(旅僧・修験・替女・座頭・物

貰の事)

御触書天明集成(三一〇五)

旧記雑録追録六(一五二四)

の3 安永七年正月十九日(家老申渡)

旧記雑録追録六(一五二四)

二八 (安永七年)閏七月十四日(途中にて貝吹一切停止の事)

二九 安永七年閏七月(花火第一火用心の事)

三〇 明和七年五月二十六日(近名又は外城より馬を率、鹿

児島へ差越の節、無刀の事)

三一 明和八年二月二十九日(産所にて直殺あるまじき事)

三二 明和八年十月(雑犬捕方の事)

三三 天明二年二月(多人数集、相撲取べからざる事)

三四 安永元年十二月二十日(角力興行札銭取無用の事)

三五 文化七年十一月七日(郷土・足輕不屈者相慎べき事)

三六 安永八年二月二十二日(雛飾りの事)

三七 安永八年二月(境瀬戸仕置場所の事)

旧記雑録追録六(一五九二の2)

- 三八 安永八年正月(破魔投・物詣等差留の事)
- 三九 寛保二年三月十七日(浜辺にて石取停止の事)
- 四〇 宝曆二年八月(御預犬へ傷付なき事)
- 公義法度(幕府触書)
 - 四一 慶長十五年四月二日(諸奉公人年季定の事)
 - 四二 慶長十七年八月六日(一季居停止の事他)
 - 四三 元和四年二月十二日(撰銭・両替法度の事)
 - 四四 元和五年十二月二十二日(かどわかし・欠落制禁の事)
 - 四五 寛永六年六月二十日(人切候もの注進の事)
 - 四六 寛文七年十月二十二日(明地に家作制禁の事他)
 - 四七 延宝二年二月日(喧嘩口論停止の事他)
 - 四八 (延宝二年)二月日(寛永の新銭両替通用の事)
- 令条記卷二十二(二六八)
- 四九 延宝二年二月日(せ葉種商売停止の事他)
- 五〇 天和二年五月日(不忠不孝の者重科の事他)
- 五一 天和二年五月日(毒業にせ葉種売買制禁の事他)
- 五二 慶長十八年三月日(一季居停止の事他)
- 五三 寛永四年正月朔日(喧嘩口論の時出向べからざる事他)
- 五四 寛文四年十月四日(博奕・隠遊女御法度の事)
- 五五 寛文七年九月四日(古かね売買禁止の事他)
- 五六 (寛文七年)未十一月朔日(はま弓・五月の甲・ひなの道具、結構にすべからざる事)
- 五七 (天和三年)亥二月(祭礼法事軽く執行すべき事、町人百姓衣服分限に応じ着用の事)
- 五八 貞享元年二月二十九日(古かね売買仕まじき事)
- 五九 元禄二年十月九日(灸針異説の申触取締の事)
- 六〇 (元禄三年)午正月十日(木のつけ木商売仕まじき事)
- 令条記卷三十一(四二七)
- 令条記卷三十一(四二八)
- 令条記卷三十一(四三二)
- 令条記卷三十一(四三三)
- 令条記卷三十一(四三六)
- 令条記卷三十一(四三七)
- 令条記卷三十一(四三九)
- 令条記卷三十一(四四一)
- 令条記卷三十一(四四二)
- 令条記卷三十一(四四三)
- 令条記卷三十一(四四四)
- 令条記卷三十一(四四六)
- 令条記卷三十一(四四七)
- 令条記卷三十一(四四八)
- 令条記卷三十一(四四九)
- 令条記卷三十一(四五〇)
- 令条記卷三十一(四五二)
- 令条記卷三十一(四五三)
- 令条記卷三十一(四五五)
- 令条記卷三十一(四五七)
- 令条記卷三十一(五五九)
- 令条記卷三十一(五六一)
- 令条記卷三十一(五六二)
- 令条記卷三十一(五六三)
- 令条記卷三十一(五六四)
- 令条記卷三十一(五六五)
- 令条記卷三十一(五六六)
- 令条記卷三十一(五六七)
- 令条記卷三十一(五六八)
- 令条記卷三十一(五六九)
- 令条記卷三十一(五七〇)
- 令条記卷三十一(五七二)
- 令条記卷三十一(五七三)
- 令条記卷三十一(五七四)
- 令条記卷三十一(五七五)
- 令条記卷三十一(五七六)
- 令条記卷三十一(五七七)
- 令条記卷三十一(五七八)
- 令条記卷三十一(五七九)
- 令条記卷三十一(五八〇)
- 令条記卷三十一(五八二)
- 令条記卷三十一(五八三)
- 令条記卷三十一(五八四)
- 令条記卷三十一(五八五)
- 令条記卷三十一(五八六)
- 令条記卷三十一(五八七)
- 令条記卷三十一(五八八)
- 令条記卷三十一(五八九)
- 令条記卷三十一(五九〇)
- 令条記卷三十一(五九二)
- 令条記卷三十一(五九三)
- 令条記卷三十一(五九五)
- 令条記卷三十一(五九六)
- 令条記卷三十一(五九七)
- 令条記卷三十一(五九九)
- 令条記卷三十一(六〇〇)
- 令条記卷三十一(六〇二)
- 令条記卷三十一(六〇三)
- 令条記卷三十一(六〇四)
- 令条記卷三十一(六〇五)
- 令条記卷三十一(六〇六)
- 令条記卷三十一(六〇七)
- 令条記卷三十一(六〇八)
- 令条記卷三十一(六〇九)
- 令条記卷三十一(六一〇)
- 令条記卷三十一(六一二)
- 令条記卷三十一(六一三)
- 令条記卷三十一(六一四)
- 令条記卷三十一(六一五)
- 令条記卷三十一(六一六)
- 令条記卷三十一(六一七)
- 令条記卷三十一(六一八)
- 令条記卷三十一(六一九)
- 令条記卷三十一(六二〇)
- 令条記卷三十一(六二二)
- 令条記卷三十一(六二三)
- 令条記卷三十一(六二四)
- 令条記卷三十一(六二五)
- 令条記卷三十一(六二六)
- 令条記卷三十一(六二七)
- 令条記卷三十一(六二八)
- 令条記卷三十一(六二九)
- 令条記卷三十一(六三〇)
- 令条記卷三十一(六三二)
- 令条記卷三十一(六三三)
- 令条記卷三十一(六三四)
- 令条記卷三十一(六三五)
- 令条記卷三十一(六三六)
- 令条記卷三十一(六三七)
- 令条記卷三十一(六三八)
- 令条記卷三十一(六三九)
- 令条記卷三十一(六四〇)
- 令条記卷三十一(六四二)
- 令条記卷三十一(六四三)
- 令条記卷三十一(六四四)
- 令条記卷三十一(六四五)
- 令条記卷三十一(六四六)
- 令条記卷三十一(六四七)
- 令条記卷三十一(六四八)
- 令条記卷三十一(六四九)
- 令条記卷三十一(六五〇)
- 令条記卷三十一(六五二)
- 令条記卷三十一(六五三)
- 令条記卷三十一(六五五)
- 令条記卷三十一(六五六)
- 令条記卷三十一(六五七)
- 令条記卷三十一(六五八)
- 令条記卷三十一(六五九)
- 令条記卷三十一(六六〇)
- 令条記卷三十一(六六二)
- 令条記卷三十一(六六三)
- 令条記卷三十一(六六四)
- 令条記卷三十一(六六五)
- 令条記卷三十一(六六七)
- 令条記卷三十一(六六八)
- 令条記卷三十一(六六九)
- 令条記卷三十一(六七〇)
- 令条記卷三十一(六七二)
- 令条記卷三十一(六七三)
- 令条記卷三十一(六七四)
- 令条記卷三十一(六七五)
- 令条記卷三十一(六七六)
- 令条記卷三十一(六七七)
- 令条記卷三十一(六七八)
- 令条記卷三十一(六七九)
- 令条記卷三十一(七八〇)
- 令条記卷三十一(七八二)
- 令条記卷三十一(七八三)
- 令条記卷三十一(七八四)
- 令条記卷三十一(七八五)
- 令条記卷三十一(七八六)
- 令条記卷三十一(七八七)
- 令条記卷三十一(七八八)
- 令条記卷三十一(七八九)
- 令条記卷三十一(九八〇)
- 令条記卷三十一(九八二)
- 令条記卷三十一(九八三)
- 令条記卷三十一(九八四)
- 令条記卷三十一(九八五)
- 令条記卷三十一(九八六)
- 令条記卷三十一(九八七)
- 令条記卷三十一(九八八)
- 令条記卷三十一(九八九)
- 令条記卷三十一(九九〇)
- 令条記卷三十一(九九二)
- 令条記卷三十一(九九三)
- 令条記卷三十一(九九四)
- 令条記卷三十一(九九五)
- 令条記卷三十一(九九六)
- 令条記卷三十一(九九七)
- 令条記卷三十一(九九八)
- 令条記卷三十一(九九九)
- 令条記卷三十一(一〇〇〇)

令条記卷三十一(四三四)

六一 元禄五年五月十日(富つき講・百人講など博奕がましき儀仕まじき事)

令条記卷三十一(四三六)

六二 元禄六年六月日(馬のものいひ申触候者穿鑿の事)

令条記卷三十一(四三七)

六三 元禄七年正月(草摺引作者不届に付御仕置の事)

令条記卷三十一(四三八)

六四 (元禄七年) 戊四月(町中借駕籠無用の事)

令条記卷三十一(四三九)

六五 (元禄七年) 戊七月(辻相撲停止の事)

令条記卷三十一(四四一)

六六 (元禄七年) 戊七月(狂言芝居の野郎等何方へも遣まじき事)

令条記卷三十一(四四二)

六七 (元禄七年) 戊十月日(外の印判の押型にて印判彫停止の事)

令条記卷三十一(四四三)

六八 (元禄七年) 戊二十(十二カ)月(町中不法者注進の事)

令条記卷三十一(四四四)

六九 (元禄八年) 亥十月二日(たばこ吞ながら往行禁止の事)

令条記卷三十一(四四七)

七〇 元禄九年八月(大酒停止の事他)

令条記卷三十一(四四八)

七一 貞享二年九月十八日(馬の筋のべ制禁の事)

令条記卷三十三(四七五)

旧記雜録追録一(一九三〇)

七二 貞享三年二月二十二日(馬の尾筋拵制禁の事)

令条記卷三十三(四七七)

七三 (貞享三年) 寅三月三日(馬の尾巻の事)

令条記卷三十三(四七八)

七四 (貞享四年) 卯十二月日(捨馬禁止の事)

令条記卷三十三(四八九)

七五 (元禄三年) 午十一月(十カ)月二十六日(捨子制禁の事)

令条記卷三十三(四九四)

七六 (元禄八年) 亥十月七日(捨子・捨犬禁止の事)

令条記卷三十三(五一二)

七七 天和二年(元禄七年カ) 戊三月日(筑紫園右衛門馬もの申虚説、不届に付斬罪の事)

令条記卷三十四(五二九)

七八 寛文十一年十一月二十二日(伊勢外宮師職新規申出、内宮師職訴により穿鑿の上処罰の事)

令条記卷三十五(五五〇)

七九 寛文七年七月二十五日(朝鮮國へ密々武器差渡す者罪科の事)

令条記卷十七(二〇九)

切支丹御禁制(幕府触書)

八〇 元和二年八月八日(黒船・イギリス船領内着岸禁止の事)

令条記卷十八(二一九)
八一 寛永十五年九月十二日(パテレンの訴人褒美の事)

令条記卷十八(二二〇)
八二 寛永十六年七月五日(ガレウタ船着岸停止の事)

令条記卷十八(二二二)
八三 万治元年八月日(パテレンの訴人褒美の事)

令条記卷十八(二二二)
八四 寛文元年七月四日(キリシタン宗門制禁の高札書直の事)

令条記卷十八(二二三)
八五 (寛文四年十一月二十五日)(キリシタン宗門改の事)

令条記卷十八(二二四)
八六 寛文四年十一月二十五日(キリシタン穿鑿の事)

旧記雜録追録一(一〇七八)
八七 延宝二年二月(パテレンの訴人褒美の事)

令条記卷十八(二二六)
八八 延宝九年二月二十九日(宗門改の証文毎年差出の事)

令条記卷十八(二二七)
八九 天和二年五月日(パテレンの訴人褒美の事)

令条記卷十八(二二八)
九〇 貞享四年六月(キリシタン宗門改帳面奉行へ可差出の事)

令条記卷十八(二二九)

歴代制度 卷之二

御代々仰出

義久公御代

九一 二十ヶ条仰出

九二 慶長二年九月十三日

九三 慶長三年四月二日

九四 慶長九年閏八月十九日

義弘公御代

九五 天正十九年後正月二十日

九六 文祿二年十二月十三日

九七 慶長二年二月十一日

九八 慶長二年二月二十一日

九九 慶長三年十一月六日

一〇〇 (慶長三年)十一月八日

一〇一 慶長四年夏

一〇二 (元和年間)

一〇三 慶長六年八月七日

家久公御代

一〇四 元和五年七月三日

一〇五 寛永九年六月十一日

旧記雜録後編四(一六一・一六一三)

一〇六 寛永九年八月二十二日

旧記雜録後編五(五二八・五二九)

一〇七 寛永九年九月八日

旧記雜録後編五(五六二)

一〇八 寛永十一年十一月二十六日(十五号文書と同文)

旧記雜錄後編五(七九四・七九五)

一〇九 寛永十一年十二月晦日

旧記雜錄後編五(七九七・八〇〇)

一一〇 寛永十三年五月十五日 旧記雜錄後編五(九一九)

一一一 寛永十四年七月二日 旧記雜錄後編五(一〇六三)

一二二 寛永十三年四月二十六日 旧記雜錄後編五(九一五)

光久公御代

一三三 寛永十六年七月朔日 旧記雜錄後編六(三〇)

一三四 寛永十七年正月二十四日 旧記雜錄後編六(一〇三)

一三五 寛永十九年十二月 旧記雜錄後編六(二八八)

一三六 寛永十九年十二月十三日 旧記雜錄後編六(二九〇)

一三七 寛永十九年十二月十三日 旧記雜錄後編六(二九一)

一三八 慶安四年二月二十日 旧記雜錄追録一(三六九)

一三九 明曆二年十二月二十五日 旧記雜錄追録一(六七三)

一四〇 明曆三年七月十七日 旧記雜錄追録一(七三六)

一四一 寛文六年八月十七日 旧記雜錄追録一(一四八)

一四二 寛文六年八月十七日 旧記雜錄追録一(一四九)

一四三 寛文七年正月三日 旧記雜錄追録一(一七〇)

一四四 寛文七年正月三日 旧記雜錄追録一(一七〇)

一四五 寛文七年七月二十六日 旧記雜錄追録一(二〇一)

一四六 寛文七年七月 旧記雜錄追録一(二〇二)

一四七 延宝八年五月二十一日 旧記雜錄追録一(二七二)

一四八 延宝三年九月二十八日 旧記雜錄追録一(二六三)

一四九 延宝三年九月二十八日 旧記雜錄追録一(二六三)

歴代制度 卷之三

御代々御袖判

義久公御代

一三〇 (九一号文書と同文)

一三一 (九二号文書と同文)

一三二 (九三号文書と同文)

一三三 (九四号文書と同文)

義弘公御代

一三四 (九五号文書と同文)

一三五 (九六号文書と同文)

一三六 (九七号文書と同文)

一三七 (九八号文書と同文)

一三八 (九九号文書と同文)

一三九 (一〇〇号文書と同文)

一四〇 (一〇一号文書と同文)

一四一 (一〇二号文書と同文)

家久公御代

一四二 (一〇四号文書と同文)

一四三 (一〇五号文書と同文)

一四四 (一〇六号文書と同文)

一四五 (一〇七号文書と同文)

一四六 (一〇八号文書と同文)

一四七 (一〇九号文書と同文)

一四八 (一一〇号文書と同文)

一四九 (一一一号文書と同文)

光久公御代

- 一五〇 (一一三号文書と同文)
- 一五一 (一一四号文書と同文)
- 一五二 (一一五号文書と同文)
- 一五三 (一一六号文書と同文)
- 一五四 (一一七号文書と同文)
- 一五五 (一一八号文書と同文)
- 一五六 (一一九号文書と同文)
- 一五七 (一二〇号文書と同文)
- 一五八 (一二一号文書と同文)
- 一五九 (一二二号文書と同文)
- 一六〇 (一二三号文書と同文)
- 一六一 (一二四号文書と同文)
- 一六二 (一二五号文書と同文)
- 一六三 (一二六号文書と同文)
- 一六四 (一二七号文書と同文)
- 一六五 (一二八号文書と同文)
- 一六六 (一二九号文書と同文)

綱貴公御代

- 一六七 (一九八号文書と同文)
- 一六八 (二〇〇号文書と同文)
- 一六九 (二〇一号文書と同文)
- 一七〇 (二〇二号文書と同文)
- 一七一 (二〇三号文書と同文)

吉貴公御代

- 一七二 (二〇四号文書と同文)

- 一七三 (二〇五号文書と同文)

繼豊公御代

- 一七四 (二〇八号文書と同文)
- 一七五 (二〇九号文書と同文)
- 一七六 (二二三号文書と同文)
- 一七七 (二二五号文書と同文)

宗信公御代

- 一七八 (二二六号文書と同文)
- 一七九 (延享四年カ) 十二月
- 一八〇 (延享四年カ) 十二月

重年公御代

- 一八一 (二二七号文書と同文)
- 一八二 (二二八号文書と同文)

重豪公御代

- 一八三 申九月

(一一三〇)〜一八三号まで「御代々様仰出書抜」にあり

御組帳序書

- 一八四 御組帳序書

- 一八五 弓馬鎗兵法鉄砲稽古の事

- 一八六 衣服定の事

- 一八七 名遠慮の事

- 一八八 無役の面々月番の御家老組頭宅又は支配頭宅へ稀々可

- 一八九 罷出旨の事

- 一八九 御家老儉約の事

- 一九〇 出家成の事

- 一九一 士以下の者士に対して無礼法等の仕形に付ての事

一九二 士の非所行仕形に付て死罪被仰付候者の子供の事

一九三 乱心もの快気仕困出等の願の事

一九四 軽き御直子其外不依何者譜代の家来にあらざるものを抱候て召仕様の事

一九五 養子違変の事

一九六 縁組並離別の事

一九七 士以下のもの於途中士行違無礼の仕形於有之は籠込又は路次にさらさせ又は鎖可申付事

二〇八 享保六年七月九日 旧記雑録追録三(二二八九)

二〇九 享保十一年五月 旧記雑録追録三(二八五七)

二一〇 享保十一年 旧記雑録追録三(二八五八)

二一一 享保十一年六月 旧記雑録追録三(二八五九)

二一二 享保五年九月十五日 旧記雑録追録三(二一八九)

二一三 享保六年七月九日 旧記雑録追録三(二二九〇)

二一四 享保六年閏七月二十二日 旧記雑録追録三(二三〇五)

二一五 享保十二年十二月 旧記雑録追録三(一九七五)

二一六 延享四年十二月 旧記雑録追録五(二六二二)

二一七 寛延二年十一月十六日 旧記雑録追録五(六一五)

二一八 寛延二年十一月十六日 旧記雑録追録五(六一六)

二一九 宝曆十三年七月 旧記雑録追録五(二八一)

二二〇 宝曆十三年七月 旧記雑録追録五(二八二)

二二一 宝曆十三年七月 旧記雑録追録五(二八三)

二二二 明和五年四月 旧記雑録追録六(五一)

二二三 明和五年六月 旧記雑録追録六(五二)

二二四 明和五年八月 旧記雑録追録六(五三)

二二五 天明七年正月(八号文書と同文) 旧記雑録追録六(二五五〇)

二二六 天明七年九月朔日 旧記雑録追録六(二六八四)

二二七 天明七年十一月二十一日 旧記雑録追録六(二七〇二)

二二八 天明八年四月朔日 旧記雑録追録六(二七七七)

歴代制度 卷之四

御代々仰出

綱貴公御代

一九八 元禄十四年二月日 旧記雑録追録二(八九三)

一九九 元禄十四年二月六日 旧記雑録追録二(八九四)

二〇〇 元禄十五年六月二十五日(十六号文書と同文)

二〇一 元禄七年四月十五日 旧記雑録追録二(二三三)

二〇二 元禄八年五月二十七日 旧記雑録追録一(二四二)

二〇三 元禄八年五月二十七日 旧記雑録追録一(二五〇八)

二〇四 宝永二年十一月十五日 旧記雑録追録二(二二三四)

二〇五 宝永二年十一月十五日 旧記雑録追録二(二二三五)

二〇六 正徳二年十月二十六日 旧記雑録追録三(二四八)

二〇七 正徳二年十二月二十五日 旧記雑録追録三(二四九)

継豊公御代

歴代制度 卷之五

農政

- 二二九 天明八年四月朔日 旧記雜錄追録六(二七二八) 二四五 取納究檢使へ勝手方より申渡の条々
- 二三〇 天明八年六月十五日 旧記雜錄追録六(二七四〇) 二四六 取納究檢者へ郡奉行申渡の書付(付張紙 午八月二十八日)
- 二三一 天明八年九月 旧記雜錄追録六(二七五三) 二四七 五月五日(取納究の儀に付申渡の事)
- 二三二 天明九年正月二十八日 旧記雜錄追録六(二七八一) 二四八 取納滞、当人召列差越候節、詰中賄の事
- 二三三 寛政元年二月 旧記雜錄追録六(二七八八) 二四九 享保十二年六月十二日(鹿食・鹿服を用い、神祭停止の事)
- 二三四 寛政二年九月三日 旧記雜錄追録七(三四四) 二五〇 享保十二年八月二十四日(諸所取納究喫扶持米の事)
- 二三五 寛政四年六月 旧記雜錄追録七(一一四) 御料所仕置
- 二三六 文化六年六月十七日 旧記雜錄追録七(二〇〇八) 二五一 慶長八年三月二十七日(御料並私領百姓仕置の事)
- 二三七 文化六年六月 旧記雜錄追録七(二〇〇九) 二五二 慶長十四年八月四日(入組の所草刈の事)
- 二三八 文化六年七月 旧記雜錄追録七(二〇一七) 二五三 慶長十六年三月十九日(堤と川除の間に牛馬放飼すべからざる事他)
- の1 文化六年七月 旧記雜錄追録七(二〇一八) 二五四 元和二年七月日(年貢納方の事)
- の2 文化六年七月 旧記雜錄追録七(二〇一八) 二五五 寛永十四年十月二十六日(悪党穿鑿の事)
- 二四〇 明和九年正月(田地打起仕付方の事、勝手方申渡、郡奉行添書) 亮典・舜典『書経』 二五六 寛永二十年三月十日(百姓仕置の事)
- 二四一 仕付草取方条書 二五七 寛永二十年三月十一日(土民仕置の事)
- 二四二 仕付草取方条書 二五八 寛永二十一年正月十一日(代官所中仕置に付、上方・関東御代官衆中へ触書)
- 二四三 申五月(干損の節、田地曠作仕替願出の事) 二五九 令条記卷二十三(二七九)
- 二四四 諸御蔵入麦代銀七月限御当地御蔵へ取納の事 二六〇 令条記卷二十三(二七九)
- の1 天明二年十一月十七日 勝手方申渡
- の2 午五月十二日 郡奉行申渡

令条記卷二十三(二八〇)

二五九 寛永二十一年(代官切に人数帳等書上、御勘定頭衆へ被仰渡の事他)

令条記卷二十三(二八一)

二六〇 慶安五年正月四日(代官中へ被仰渡の事)

令条記卷二十三(二八二)

二六一 明暦二年十二月日(盗賊人穿鑿の事)

令条記卷二十三(二八三)

二六二 寛文二年二月二日(山川掟)

令条記卷二十三(二八四)

二六三 寛文六年十一月十一日(御勘定所下知状)

令条記卷二十三(二八五)

二六四 寛文八年三月(庄屋・百姓へ被仰渡の事)

令条記卷二十三(二八六)

二六五 延宝八年閏八月三日(代官中へ被仰渡の事)

令条記卷二十三(二八七)

二六六 寛永十九年五月二十四日(祭祀仏事結構仕まじき事他)

令条記卷三十二(四五三)

二六七 寛永十九年七月二十九日(耕作の事)

令条記卷三十二(四五五)

二六八 (寛永十九年) 午十一月二十一日(年貢未進詮議の事)

令条記卷三十二(四五七)

二六九 貞享四年四月(質地年貢役勤の事、田畑永代売買制禁の事)

令条記卷三十二(四七〇)

二七〇 薩摩藩農業法書上(天和三年七、八月頃)

の1 苗地の事

の2 種子浸し様の事

の3 田植付水加減の事

の4 打起の事

の5 千田鋤き分様の事

の6 上田・中田・下田に苗分の事

の7 田の本掻きの事

の8 追肥仕様の事

の9 秋水落の事

の10 刈調の事

の11 籾干様の事

の12 種子籾扱様の事

の13 種子籾格護様の事

の14 種子籾格護様の事

の15 植稲過候を養生の事

の16 南山かけ田の事

の17 そば田の事

の18 わき水養生の事

の19 例作仕様の事

の20 麦作の事

の21 麦打手の事

の22 粟草取候と中打と損得の事

の23 馬屋拵様の事

の24 馬屋底のごみ土取事

の25 糞屋仕掛様の事

- の26 春物植用の作肥
- の27 小便溜の事
- の28 悪水溜の事
- の29 のべ肥の事
- の30 芝肥作様の事
- の31 ごみ土取様の事
- の32 たて鯛肥用様の事
- の33 万の肥用様の事
- の34 苗代の事
- の35 食物の段
- の36 麦かけの仕様の事
- の37 尾張餅調の事

歴代制度 卷之六

御蔵入並小座附之事

- 二七一 享和三年亥免本
- 二七二 寛政七年(蔵入高 表方)
- 二七三 寛政七年(蔵入高 二万石方・三万石方)
- 二七四 天明七年正月(隠居料の事)
- 二七五 宝暦四年五月十日(隠居料の事)
- 二七六 天明三年正月二十日(部屋柄料の事)
- 二七七 寛政七年(蔵入高 帖佐与方)
- 二七八 諸所垂蠟所の事
- 二七九 御新田方・御納戸新田方の事
- 二八〇 名山大沢不以封、云々

- 二八一 寛政七年(蔵入高 帖佐与小座)
- 二八二 寛政七年(蔵入高 国分与方)
- 二八三 寛政七年(蔵入高 国分与小座)
- 二八四 安永六年九月(尾畔方入料の事)
- 二八五 御分国中給地高の事

御附高

御蔵入物成定

- 二八六 安永(六年)酉八月(於千万様方千石重の事)
- 二八七 物成定
- 二八八 百姓上納規模
- 二八九 諸納物月限
- 二九〇 諸物代糶
- 二九一 寛政七年五月代官書出(物成定)
- 二九二 享保二十年十月十四日(菜種入草代の事)
- 二九三 百姓より年中納物定
- 二九四 免物並諸上納物定法の事
- 二九五 諸上納物月限の事
- 二九六 宝永上使御答書 「御問條御答書写」
- 二九七 給地百姓取納米定
- 二九八 宝暦六年十月二十一日(江戸御統木綿織調の事) 十二月二十一日 勝手方申渡
- 二九九 月限物次第
- 三〇〇 椿蒸剥賃銀定
- 三〇一 御新田溝下見掛
- 三〇二 菜種見掛の次第
- 三〇三 塩浜見掛の次第

王制『礼記』

- 三〇四 刈跡掛
- 三〇五 畠田成の次第
- 三〇六 籾を米に成次第
- 三〇七 高作りの次第

狩夫銀

- 三〇八 浦人共狩夫銀上納の取調の事
 - の1 辰八月二十日 シラベ方会所問合
 - の2 辰九月一日 船奉行返答、張紙
- 三〇九 寛延二年十月五日（下甕島浜方、狩夫銀御免の事）
- 三一〇 元文五年九月二十一日（狩夫銀下され方の事）
- 三一一 元文二年四月十六日（加世田浦、狩夫銀御免の願取揚ざる事）
- 三一二 桜島水手屋敷に罷居候百姓へ狩夫銀上納申付の事
 - の1 寛延二年三月二十五日 桜島浦役届
 - の2 寛延二年三月二十九日 船奉行届
 - の3 寛延四年三月十日 家老座申渡
- 三一一三 喜界島物定帳抜書
- 模合出米
 - 三一一四 模合米高一石に付八升一合定の事
 - 三一一五 高掛り出銀・出米の事
 - 三一一六 延享三年六月二十九日（給地高出米、重出米定の事）
 - 三一一七 寛永六年より享保十六年まで出銀・出米書上の事
 - 三一一八 享和三年四月（重出米証文入付申付の事）
 - 三一一九 享保（享和カ）二年五月八日（持高に応じ出米・賦米申出の事他）
 - 三二〇 文化五年九月（重出米定の事）

三合米

- 三二一 寛政七年十一月朔日（重出米定の事）
- 三二二 寛政元年三月（給地高出米上納に付定の事）
- 三二三 文化七年五月十六日（高引入分の重出米御免の証文）
- 三二四 元禄十四年九月十四日（鹿兒島衆・外城衆出米、役米、百姓殿役米・南都大仏殿勸化上納の事）評定所・国遣座申渡
- 三二五 安永八年九月（諸人出米不足の方へ証文を以て入付の事）
- 三二六 寛政十一年正月（百姓夫仕減少方被仰渡の事）
- 三二七 三合米上納方被仰付の事
 - 申八月二十日 勝手方申渡
 - 申十一月十三日 郡奉行
- 三二八 三合米引結方
 - の1 西二月二十五日 帖佐与代官問合
 - の2 西二月二十五日 船奉行張紙返答
- 三二九 蔵入給地郷土自作高一統三合出米申付の事
 - の1（享和二年）二月二十九日 掛郡奉行申出
 - の2（享和二年）四月二十八日 御勝手方申渡
- 三三〇 寛政十二年七月（郡奉行吟味の事）

歴代制度 卷之七

里数之事

- 三三一 寛政上使御答書（領内惣廻・道程）
- 三三二 寛政五年三月（出水より志布志まで海上里数の事）

三三三 享保二年八月 要用集
御領國中諸浦数郡分

三三四 御領國中諸浦数(郡分)

薩隅日荘院

三三五 薩隅日荘院

寺院数

三三六 薩隅日寺院

他国末寺

三三七 御国寺院他国へ有之末寺

薩隅日御城地並古城

三三八 御城地並古城

三三九 寛政元年上使御答書(国中古城の事)

諸所番所

三四〇 寛政元年上使御答書(陸路・異国船・異国船遠見・津口番所の事)

三四一 宝曆十四年三月(山野辺路番所の事)

三四二 安永七年十一月(辺路堀切申付の事)

三四三 宝永上使御答書(諸所他国通路改番の事他)

「御問條御答書写」

三四四 安永七年八月五日(辺路番所新規・引取の事)

三四五 天明二年八月(辺路番人差置の事)

三四六 寛政六年五月(番所絵図面の事)

三四七 天明七年八月(諸所境目番所にて諸士以上は下乗下馬不要の事)

御領國中牧数

三四八 宝永六年上使御答書(牧数十八ヶ所)

三四九 瀬崎野・吉野野牧由緒の事

三五〇 寛政元年上使御答書(牧数十七ヶ所)

御領内港数

三五一 宝永七年上使御答書

三五二 寛政元年上使御答書

三五三 享保四年正月二十二日(山川港毎年深さ調べ申付の事)

外城

三五四 外城由緒の事

三五五 川上久国覚書

三五六 寛政元年上使御答書

三五七 天明四年四月(外城を郷と唱替の事)

御領内島数之事

三五八 御領内島数

三五九 寛政五年(公儀役人廻浦に付御答書調書、出水より志布志までの間、海上島々)

三六〇 六月十四日(鷹島の事)

三六一 寛政六年六月二十二日(宇治島・草カキ島の事)

三六二 寅六月二十三日(宇治島・草カキ島の事)

三六三 安永七年七月(宇治島・草カキ島の事)

御領國中人体

三六四 寛政上使御答書(領國中人体の事)

三六五 宝永四年十一月晦日 宝永上使御答書(領國中人体)

船数之事

三六六 寛政上使御答書(船数・船運上・船賃の事)

三六七 正徳三年御船手証文留(諸浦相芳大船造立無之の事)

三六八 宝永六年(船数改)

- 三六九 明和三年（船数改）
 三七〇 明和八年（船数改）
 三七一 安永五年（船数改）
 三七二 天明八年（船数改）
 三七三 文化元年（船数改）
 三七四 宝永上使御答書（船数の事）
 三七五 享保二年 要用集
- 〔御問條御答書写〕
- 三八六 文化二年十月二十五日（置籾、公儀仰渡に付困方の事）
 三八七 寛政九年十月二十九日（困米、公儀仰渡に付困方の事）
 三八八 寛政六年十二月（困米成丈籾にて詰置べき事）
 三八九 寛政元年九月（万石以上、高一万石に付五十石困籾の事）

御領内橋数

三七六 寛政上使御答書（領内橋数）

私領

- 三七七 私領
 三七八 元文二年八月二十九日（島津壮之介越前家相統被仰付の事）
 三七九 元文四年三月十五日（島津壮之介私領重富）
 三八〇 延享元年十二月三日（島津三次郎私領今和泉）
 三八一 享保十年七月二十七日（島津周防私領花岡）
 三八二 国目付様御問條御答書の内
 三八三 島津一養所持外城の事

新築地

三八四 築地始りの事

〔薩陽落穂集〕

歴代制度 卷之八

困籾

- 三八五 宝曆三年九月十一日（困籾、公儀仰渡に付、高一石に付真籾二升六合割合申付の事）

御触書天保集成（五八九三）

三九〇 寛政元年西九月（困米に付心得方の事）

西五月二十五日 家老座申渡

御触書天保集成（六〇三二の二）

三九一 寛政二年七月（当年豊熟に付成丈置籾困米可申付事）

九月二十六日 家老座申渡

御触書天保集成（六〇三六）

三九二 寛政二年十月十三日（当年豊熟に付、置籾・困米公儀仰渡、寺門前浦浜野町へ困方申付の事）

三九三 文化七年十二月七日（困米、公儀仰渡に付困方の事）

酒造米

三九四 寛政元年八月（酒造米高去年以前の三分一造の事）

九月 家老座申渡

御触書天保集成（六一四五）

高役金

三九五 文化六年五月（朝鮮信使来聘に付高役・国役上納の事）

三九六 宝永五年閏正月二十二日（武州・相州・駿州村々砂積に付諸国高役金上納の事）喜界島仰渡留

三九七 文化九年正月（朝鮮信使来聘に付高役・国役上納の事）

三九八 天和三年六月九日（玉川上水道水銀受取書）

諸研

三九九 明和七年十二月九日(諸枿定)

四〇〇 諸枿定

四〇一 貞享四年六月二十七日(上納米計様の事)

四〇二 日本の量制

諸枿

四〇三 東国三十三ヶ国秤改に付守随彦太郎方役人相廻の事

寛政六年十二月九日 家老座申渡

御触書天保集成(六一七)

四〇四 西八月(西国三十五ヶ国神善四郎秤改の事)

安永七年正月十九日 家老座申渡

御触書天明集成(二九一四 安永六年八月)

四〇五 宝曆四年九月(分銅改の事) 町奉行申出

九月八日 勝手方申渡

四〇六 本朝当代の秤 「経済録」

四〇七 和漢名数 「和漢名数」

尺度

四〇八 算書

四〇九 経済録 「経済録」

万升目

四一〇 升目定

四一一 寛延元年(升目定)

四一二 寛延三年九月(升目定)

四一三 寛延三年六月十日(升目定)

四一四 天和三年八月四日(升目定)

四一五 升目定

四一六 御蔵取納俵入実定の事

の1 亥七月二十九日(入実例に付、諸座吟味の事)

の2 享保四年亥八月三日 勝手方申渡

四一七 享保九年十一月二十日(御蔵取納俵入実入念の事)

四一八 享保五年六月二十五日(菜種俵入実定の事)

四一九 文化五年閏六月(喜界島統米積船時節遅れ上納の節、
升目定の事)表方代官調へ

六月十五日 勝手方申渡

四二〇 延享二年三月朔日(御蔵米弘方並津廻米の事)

俵作定

四二一 俵作定

起先之事

四二二 起先之事

四二三 物を手前へ引くを起すと云事

四二四 文禄三年九月二十二日 阿多差出帳

四二五 明暦三年四月十五日 御船手御規帳

四二六 寛永十四年 天草一乱に付万引付留

四二七 寛永二十年(臥蛇島へ飢米下賜の事)

打米

四二八 打米定

四二九 尾張米打例

四三〇 人足一人打米定

酒醬類規

四三一 御台末御規

歴代制度 卷之九

御領國中産物

四三二 明和八年十二月(肥後・奥州紅花生産銀高の事)

四三三 享和三年十一月九日(宝曆九年薩州産物品書、大坂薩州定問屋より届出)

四三四 寛政三年九月十五日(薩州並琉球産物唐物に類する品々書上、幕府へ届出)

四三五 正月七日(薩州並琉球産物唐物に紛らわしき品々長崎表にて入札払の事)

四三六 寛政三年十一月二十五日(唐物に類する産物取捌の事)

四三七 享和三年十一月十八日(産物書上、西御役所へ届出)

四三八 宝永七年上使御答書 「御問條御答書写」

四三九 申五月(薬種類大坂にて売捌方の事)

四四〇 領國中産物売捌方の事

の1 平賀信濃守口達控写

の2 申八月二十一日 勝手方吟味の返答船奉行へ申渡

米賦

四四一 享保十二年九月二十六日証文(享保十二年米賦)

四四二 領國中惣出来米

四四三 享保九年八月三日(享保九年江戸米賦)

四四四 宝永六年十月二十日(宝永六年米賦)

四四五 文化元年八月二十六日(諸殿役日用代米・夫飯米、諸運賃米など赤米にて相渡の事)

四四六 寛政四年閏二月(大島統米赤米の事)

四四七 未七月二十四日証文(元文四年大島御買入砂糖代米)

四四八 未九月二十三日証文(元文四年喜界島砂糖代米)

四四九 元文四年江戸物奉行申出(江戸統米他)

四五〇 文化元年四月十二日(米賦八月申差出べき事)

四五一 享保二十年十月(米値段並運上其外売買心得の事)

十月二十三日 家老座申渡

御触書寛保集成(一九二一)

四五二 天明三年四月三日(米賦、八月より翌七月中迄入用分)

七月中差出べき事)表方帖佐与代官吟味申出

五月十八日 勝手方申渡

四五三 文化三年九月(米穀沢山に付酒造休株も勝手次第酒造の事)

十一月四日 家老座申渡

御触書天保集成(六一六〇)

四五四 文化元年八月七日(諸郷へ差越の奉公人扶持米真赤半分づつ相渡すべき事他)

文化五年五月八日(諸郷へ差越の奉公人扶持米真赤相渡すべき事他)

四五六 寛政六年七月九日(米賦、七月中差出すべき事)

四五七 寛政三年六月十日(米賦、九月より翌八月中迄入用分)

七月中差出すべき事)

四五八 元文元年六月(米定値段相止、相對の事)

七月 申渡

御触書寛保集成(一九三一)

四五九 享保二十年十月十四日(外場より御物入を以て津廻の事)

四六〇 寛政三年十月(江戸表扶持米領分より可廻の事)

十一月二十八日 家老座申渡
御触書天保集成(六〇三八)

御前米

四六一 寛政八年九月(御前米、撰下地米の事)

四六二 巳九月十五日(御前米に付、享保十一年午九月江戸物奉行問合)

四六三 享和三年(御前扱摺粉の事)

大豆

四六四 寛政五五年大豆賦

の1 子十一月五日(入付石高内場にて不足に付、津下

し繰入の便船手当の願)表方代官届出

の2 子十一月七日 勝手方申渡

菜種子賦

四六五 享保十二年十月四日証文(享保十二年菜種賦)

四六六 享保八年九月二十日証文(享保八年菜種賦)

四六七 享保九年九月五日(享保九年菜種賦)

四六八 寅十月五日証文(享保十九寅年免本)

四六九 安永四年四月二十四日(菜種他国売買差留の事)

四七〇 寛政三年亥十月九日(菜種問屋兵庫に新規取立の儀公儀触達に付、他国出印鑑案文召替の事)

亥十月五日 勝手方申渡

四七一 享保十一年十月晦日書付(油屋七軒に御心付菜種の事)

四七二 天明八年三月七日(菜種他国出手形取揚の事他)

四七三 天明九年三月二十九日(菜種他国出、三月より十月迄差留に付、知覧・頰娃より訴訟の事)郡奉行吟味

四月二十八日 勝手方申渡

四七四

天明八年四月二十五日(他国積出菜種津廻取締に付三月二十七日横目蔵方目付より申出の事)船奉行吟味

七月十二日 勝手方申渡

四七五

八月(菜種綿実大坂へ積廻の事)

十月二十八日 勝手方申渡

四七六

御触書宝曆集成(一三七九)

四七七

卯十月二十八日(中途売却、津口手形の事)

四七八

宝曆十年三月二十九日(大坂菜種綿実問屋定の事)

四七九

安永六年八月十六日(他国より積来菜種運上銀の事)

四八〇

文化三年五月(他国出菜種無手形抜積取締の事)

四八一

寛政六年寅四月(菜種他国出手形取次免許の願)

四八二

寅四月十八日 船奉行届出

四八三

四月二十五日 勝手方申渡

四八四

寛政四年閏二月(菜種惣買入被仰付の事)

四八五

安永五年七月十九日(菜種干拵改の事)

四八六

寛保三年四月(水油高値に付、諸国菜種作増大坂へ積廻の事)

四八七

四月四日 勝手方申渡

歴代制度 卷之十

上方

四八六 宝曆十三年八月二十七日（船奉行より大船造立の吟味申出）山奉行調べ

四八七 享保十二年九月十七日（新材木方を取下方と改の事）

四八八 宝永六年十一月十八日（竹木植場申付の事）

四八九 寛政三年四月二十五日（抱地にて楠丸木船作立差留の事）

四九〇 享保十一年正月十三日（死苦村の材木津口銀上納にて他国出被仰付の事）

四九一 宝曆八年八月十日（代銀上納にて申受の者、月限相過伐取候節、本木取揚・科料申付の事）

四九二 寛延三年九月（商売山願出の節、支の有無糺方の事）

四九三 天明四年七月二十五日（領国中木絶に付被仰渡の事）

四九四 明和八年六月（他国商売諸材木・椎皮類運上改方の事）

四九五 享保十三年十一月十九日（聊爾伐の者、本木取揚・科錢被仰付の事）

四九六 文化五年七月二十二日（大船帆柱・帆桁代銀割増定の事）山奉行吟味書、付張紙

四九七 諸所船持申受の帆柱・帆桁見分の事

四九八 山川成川村植松枝扨一件に付、山奉行吟味の1 文化三年（諸人仕立山御規の事）

の2 天明七年（百姓門付山御規の事）

五〇三 明和六年三月（大船持修補用本木申受の事）

五〇四 文化二年二月二十七日（商売鉄山免許の事）

五〇五 文化二年七月二十三日（入来城山伐木代銀の事）山奉行調べ

五〇六 寛政九年八月二十四日（抱地仕立木・宇都入材木にて楠丸木船造調の事）山奉行調べ

五〇七 鹿倉商売山運上銀定

五〇八 寛政四年正月（島下難船帆柱申受代銀上納定）

五〇九 文化五年四月二十一日（獵方家業の者丸木船造立願山奉行調べ）

五一〇 文化五年四月十六日（屋久島杉取方の事）

五一一 文化五年七月十日（屋久島杉取方の事）山奉行調べ

五二 宝曆三年二月八日（御用材木切府仕向替吟味の事）作事方惣大工調べ

二月十日 普請奉行調べ

六月四日 船手惣大工調べ

六月五日 船奉行調べ

六月二十三日 勝手方申渡

五二三 享保十年五月二十二日（種子島、山方取締の事）

五二四 寛政四年閏二月十日（種子島交代船積入材木取締の事）山奉行他伺い

与中差杉由緒

三月十日 申渡

「差杉来由私考」

金山

- 五二八 長野山ヶ野金山由緒
- 五二九 五部銀
- 五二〇 一当銀
- 五二一 問見米
- 五二二 長野山ヶ野金山
- 五二三 芹ヶ野金山
- 五二四 鹿籠金山・芹ヶ野金山
- 五二五 鹿籠金山・芹ヶ野金山
- 五二六 鹿籠金山引入銀
- 五二七 川辺神殿金山
- 五二八 大口牛尾浦金山
- 五二九 田代前目高塚金山
- 五三〇 大口大平金山
- 五三一 坊泊廣大寺金山
- 五三二 阿多水無川原金山
- 五三三 綾浦中尾筋大森金山
- 五三四 馬越山田村山仮屋金山
- 五三五 串木野西嶽
- 五三六 恒吉御牧鷹鳥
- 五三七 寛政元年上使答書（金山の事）

金山

牛馬

- 五三八 寛政元年上使答書（錫山の事）
- 五三九 寛政元年上使答書（鉄山の事）
- 五四〇 寛政元年上使答書（銀山・鉛山の事）
- 五四一 寛政元年上使答書（明礬山の事）
- 五四二 樟脳山の事
- 五四三 水晶山・雲母山・砥石山の事
- 五四四 宝永上使御答書（金山の事）
- 五四五 享和三年三月（山ヶ野金山御取建の由緒）

「金山萬留」

明和二年九月（抜馬取締の事）

明和三年九月（御牧馬野方より取下飼方の事）

宝曆十三年九月八日（死馬処分人足へ下賜銀以後下されざる事）（七九八号文書と同文）

享保三年十月二十九日（島々牛馬口銭の事）

閏十月三日 勝手方申渡

文化元年九月（牛馬皮相對買入願の事） 細工奉行調べ

十月五日 勝手方申渡

安永八年九月（死牛馬等土中に埋候事）

安永四年四月（他国出馬改方へ持越蠟燭の事）

安永四年五月（他国出馬・駒弘の節蠟燭灯方の事） 御

厩詰座横目届

五月 申渡

御小荷駄

宝曆七年六月二十四日（小荷駄入用届出の事）

歷代制度 卷之十一

唐物御取締

五五五 正徳四年五月(長崎往来唐船私商売取締の事)

旧記雜錄追録三(三三五〇)

五五六 享保三年六月(唐船持渡の諸色抜荷商売取締の事)

五五七 享保三年十一月(西国中国筋津々浦々抜商改の事)

五五八 享保三年十一月(唐船海上にて見掛候節、間を隔つべき事)

き事)

五五九 享保四年六月(唐船抜商改嚴重の事)

五六〇 享保四年九月(唐船漂着取扱の事)

五六一 寛政二年九月(唐紅毛商売減少に付、抜商取締の事)

五六二 寛政五年十一月(領内唐物取締の次第御尋の節答振)

家老申渡

十一月十八日 別紙

五六三 文化二年九月(抜荷改めのため古手板回収の事)

五六四 天明七年十二月(琉球より持登りの薬種並粉末鼈甲類の事、別紙品書上)

五六五 天明七年十月(粉末並朱墨取扱の事)

五六六 寛政元年五月(琉球より持上りの諸品取締仕向の事)

(五七六号文書と同文)

五六七 寛政元年閏六月(唐阿蘭陀持渡の品手板改の事)

五六八 安永六年七月(朱墨朱座にて買請商売致すべき事)

八月二十二日 家老申渡

御触書天明集成(二九七八)

五六九 享和二年正月(琉球へ渡海の者唐物買取持上禁止の事)

五七〇 文化二年七月(琉球人持上の薬種類密買禁止の事)

五七一 享和三年閏正月(琉球へ清国より持渡の薬種其外品々取捌方公儀願出の事)

五七二 寛政四年五月二十九日(山川港にて琉球の唐物改の事)

五七三 天明八年十一月五日(朱抜売取締の事)

五七四 天明八年六月(洋山人参外薬種類医師外へ代料引替にて渡の事)

五七五 寛政元年四月(唐物抜荷取締に付長崎奉行より申渡)

五七六 寛政元年五月(琉球より持上りの諸品取締仕向の事)

(五六六号文書と同文)

五七七 天明七年七月(朱並朱墨朱座より買請商売の事)

八月二十二日 家老申渡

御触書天明集成(二九八五)

五七八 元文六年十月(琉球唐物買取禁止の事)

五七九 安永五年六月七日(唐物取締に付津口改嚴重の事)

五八〇 安永五年六月二十日(琉球唐物抜荷等取締の事)

五八一 天明二年十一月(朱並朱墨朱座より買請商売の事)

十二月二十五日 家老申渡

御触書天明集成(二九八〇)

五八二 文化元年正月(唐物津口番所改嚴重申渡の事)

御触書天保集成(六五一四 享和二年十二月)

五八三 文化元年二月(唐物抜荷取締に付、旅人帰国等の節諸所改方の事)

五八四 文化元年二月(他国出証文改方の事)

五八五 文化元年二月(出帆の船改方の事)

五八六 正月(京都町人共商売荷物船路番所改方の事)

- 五八七 正月（諸所番所取締の事）
- 五八八 二月（西目筋浦々より技乗取締の事）
- 五八九 子七月二十三日（唐物技荷の訴人へ褒美の事）
- 五九〇 享和三年亥二月（進貢・接貢船より薬種持越ざる様公儀仰渡の事）
- 五九一 亥二月（進貢・接貢船より薬種持込禁止に付、琉球にて取締向の事）
- 五九二 亥二月（進貢・接貢船より薬種持込禁止に付、他国抜売の事）
- 煎海鼠・鮑
- 五九三 安永七年三月（煎海鼠・干鮑増産致すべき事）
- 五月 家老申渡
- 御触書天明集成（二九三四）
- 五九四 寛政八年正月二十六日（長島煎海鼠長崎俵物会所へ売渡の斤数・代銀届出の事）
- 五九五 享和二年四月（長島にて当年余分取得の煎海鼠の事）
- 五九六 文化三年四月（長崎代官高木作右衛門廻浦に付答振の心得）
- 五九七 寛政十年九月七日（公儀勘定方平岩右膳廻浦に付被仰渡、付張紙）
- 五九八 天明五年二月（煎海鼠・干鮑増産致すべき事）
- 五月 家老申渡
- 御触書天明集成（二九三六）
- 五九九 寛政元年四月（煎海鼠・干鮑・鱧鱈長崎俵物方へ差廻の事、長崎奉行所より被仰渡）家老申渡
- 六〇〇 享和二年二月二十九日（長島煎海鼠究斤数より過不足吟味の事）長島役々届
- 三月 船奉行届
- 四月 家老申渡
- 六〇一 寛政十一年四月二十五日（長崎俵物会所買上書）
- 六〇二 未四月二十五日（請負余分褒美銀高）
- 六〇三 明和四年十一月二十三日（唐和明舞会所以外売買致まじき事）
- 御触書天明集成（二九四三 明和四年閏九月）
- 六〇四 明和五年七月二十三日（長崎にて龍腦和製被仰付候間、持渡同様通用の事、龍腦座並取次所の事）
- 御触書天明集成（二九四五 明和五年六月）
- 六〇五 天明二年九月（屋久島黄蓮其外仕立薬種採薬差留の事）
- 六〇六 天明六年九月（琉球登唐物領内商売の事）
- 六〇七 寛政元年五月（他国より入米繰綿請負の事）
- 六〇八 天明八年六月（広東人参売買勝手次第の事）
- 御触書天保集成（六〇七五 天明八年正月）
- 六〇九 十二月（朝鮮人参公儀作殖差止、作付売買勝手の手）
- 寛政三年二月二十一日 家老申渡
- 御触書天保集成（六〇七九 寛政二年十二月）
- 六一〇 文化八年八月十七日（諸國産薬種の内御買入あるいは勝手売買の品々書上、付張紙）
- 六一一 文化七年十月十五日（御買入薬種技売買取締の事、別紙御買入品書上）
- 六一二 文化十一年六月（江戸表へ出候唐薬和薬、組合の外引請禁止の事）

八月十四日 家老申渡

御触書天保集成(六〇八九)

菓園

六二三 天明八年十月朔日(御買上菓種津口より便船にて大坂

へ差登の事) 菓園掛届

十月 家老申渡

六二四 寛政元年六月十三日(領内菓種惣買入の事)

歴代制度 卷之十二

諸郷

六一五 天明二年七月十日(諸郷土百姓役名改の事)

六一六 天明六年二月(諸郷へ火消掛申付の事)

六一七 天明七年八月(高札書改の事)

六一八 元文四年三月(外城諸役々々囀組頭外勤年限七八年の事)

六一九 天明四年十二月(褒美被仰付候節、外城より差越の事)

六二〇 享保七年九月(鉄砲稽古場願出の事)

六二一 明和六年十月二十六日(鉄砲稽古場五里外は願出に及

ばず取立の事)(六六三号文書と同文)

六二二 明和九年七月(寄噺同筋筋達致まじき事)

六二三 元文二年六月二十四日(役分高を役分地と唱替の事)

六二四 元文二年六月(指宿衆中百姓御奉公事取調へ)

六二五 明和三年十二月(国分、口事入組に付横目派遣願出の

事)

六二六 宝暦十年正月十四日(諸外城横目寄役の事)

六二七 天明五年九月二十四日(諸郷郷土隠居家督名替の届出)

六二八 享和元年十一月(諸郷より役々差越祝物半減の事)

六二九 安永五年五月(天草へ商売方差越、領内一統差留の事)

六三〇 文化六年正月(牛馬役勤方定の支払の事) 御馬預調へ

二月十一日 勘定奉行吟味

三月 家老申渡

六三一 宝永二年八月二十八日(出水の儀)

六三二 元文四年三月二十二日・六月二十三日(外城諸役々々

数七八ヶ年にて役儀断の事)

六三三 寛保二年三月二日(外城より所有の物差上の節の事)

六三四 享保二十年八月(外城へ諸奉公人差廻の節、進物馳走

致まじき事)

六三五 享保十一年七月(外城衆中へ役儀申付の節、地頭より

申渡の事)

六三六 延享五年二月(年季暇申出の者へ祝料等申付まじき事)

(七〇九号文書と同文)

六三七 正徳二年十月十八日(桜島へ遊山等に罷越まじき事)

六三八 安永七年正月(虚無僧修行の者制止の事、公儀仰渡)

六三九 安永六年十月(浪人体の者、公儀仰渡)

六四〇 安永七年十月(穢多非人、公儀仰渡)

六四一 明和六年、七年(百姓徒党強訴、公儀仰渡)

六四二 文化九年十月(鳥方御用川雑魚・ウツキ上納公役の事)

六四三 元禄十四年九月二十五日(進上菓子着の事)

六四四 文化十年四月十七日(隠居死失名替届出の事)

六四五 貞享七年正月(関狩の事、獵師渡世の事)

六四六 享保八年十二月(五里外外城年中狩の定)

狩獵

六四七 享保六年十二月十九日(狩一切許されまじき事)
 六四八 元禄二年六月(獵師のほか猪鹿狼打禁止の事)
 六四九 安永七年五月(御狩の節鉄砲打御免)

六六六 正徳三年八月(城下より二里半内鉄砲打禁止に改めの事、高札建置の事)

御鷹場
 六五〇 文化五年九月二十四日(諸所御鷹場)
 六五一 安永六年三月(鹿兒島近名近外城鉄砲打等禁制の事)
 六五二 安永六年四月(御鷹場近辺鉄砲差留の事)
 六五三 安永六年六月(加治木知覧近外城鉄砲差留の事)
 六五四 安永六年七月(鹿兒島近名・御鷹場有之外城、鉄砲打鳥類取禁止の事)

鉄砲改
 六六七 享保八年十二月(硫黄島・竹島鉄砲持主代合届出の事)
 六六八 喜界島御規模帳(島中兵具鉄砲改の事)
 六六九 貞享二年二月(鉄砲高札下書の事)
 六七〇 御触書寛保集成(二五二四の二)
 貞享二年二月(鉄砲高札の事)
 御触書寛保集成(二五二四の一)
 貞享三年四月二十二日(諸国一同鉄砲改の事)

六五五 安永六年七月(鉄砲切封の事)
 六五六 安永六年七月(鉄砲切封、私領は領主被仰付の事)
 六五七 安永六年八月(近名へ借地にて罷居候士、鉄砲切封の事)

六七二 御触書寛保集成(二五二五)
 貞享四年十二月(鉄砲改帳面仕立案文)
 六七三 延宝四年七月三日(百姓所持鉄砲取上、穿鑿検使差遣の事)

鉄砲方限
 六五八 安永六年八月(借地又は中宿の士鉄砲切封の事)
 六五九 安永六年八月(私領鉄砲切封の事)
 六六〇 安永六年九月二日(御鷹場近外城牧内鉄砲許可の事)

夫仕
 六七四 御触書寛保集成(二五二三の一)
 (延宝四年)辰七月三日(関東中鉄砲改仕様の事)
 御触書寛保集成(二五二三の二)

六六一 享保五年二月(鹿兒島より五里内鉄砲打禁止の事)
 六六二 明和五年十二月(持留地にても城下より五里内鉄砲打禁止の事)

六七五 寛政九年八月(諸所送人馬減少の事)
 六七六 寛政十年二月(御鷹方餉差越等の夫仕減少の事)
 (六八七号文書と同文)
 六七七 正徳元年十二月二十二日(吉野御牧堀普請夫等の夫仕桜島は御免の事)

六六三 明和六年十月二十六日(鉄砲稽古場五里外は願出に及ばず取立の事)(六二二号文書と同文)
 六六四 安永二年十一月十二日(鹿兒島より三里四方鉄砲打禁止に改めの事)
 六六五 明和三年三月二十四日(御精進日等規定の事)

六七八 午九月二十一日(加勢夫飯米の定)
 六七九 安永七年十一月(駕籠乗・水夫・仕夫・送人馬等減少の事、小間物商売差留の事、新田開方差留の事)

六八〇 寛延二年四月(送馬規定の事)

六八一 安永八年七月二十三日(浦方へ奉公人差廻の節、夫仕入付方の事)

六八二 天明三年九月(橋修補に付夫飯米定)

六八三 安永九年七月二十三日 肝要帳の内

六八四 天明六年九月七日 通達留

六八五 文化元年四月七日(普請夫飯米定)

六八六 寛政十一年十二月(参勤人馬賃払の事)

六八七 寛政十年二月(御鷹方餌差差越等の夫仕減少の事)

(六七六号文書と同文)

人配移者並揚り者

六八八 享保八年八月十八日、大御支配有之節二百八十一家内

移者の事

六八九 寛政十二年閏四月、桜島新島へ赤水村・黒神村より五

家内移者の事

六九〇 申六月二十四日(新島へ漁獵の船三ヶ年十部一渡方の

事)

六九一 浦人浜町の者咎により移候節、相応小屋掛所中より作

調の事

六九二 札改条目(揚者申受の事)

歴代制度 卷之十三

年季抱

六九三 享保十二年十月六日(年季証文書物の事)

六九四 正徳二年正月十二日(座頭手挽年季抱免許)

六九五 寛延三年(江戸京大坂詰役年季抱主人替の事)

六九六 御物御買入人足の事

六九七 安永二年六月四日(水間喜八年季抱願)

六月十日(免許)申渡

六九八 分国抱、上方他国抱者の事 「御問條御答書写」

六九九 文化五年八月(壽国寺年季抱免許の事)

七〇〇 享保十年五月(飯限山年季抱者願、寺院へは一向不許可の事)

七〇一 安永五年五月四日(上方表より抱下届出の事)

七〇二 元文二年十月二日(百姓を町人抱免許の事)

七〇三 安永四年十月(上方永代抱者札元直の事) 札改条目

七〇四 寛政十二年八月(初めて手札取者証文の事他) 札改条目

七〇五 元文元年(浦町の者浦を離れ格別取立の事)

七〇六 浦浜人年季願の事

七〇七 享保四年三月(百姓浦浜人年季出の定)

七〇八 明和元年十月(鹿兒島土・外城衆中浦人雇、江戸上方十五ヶ月免許の事)

七〇九 延享五年二月(年季暇申出の者へ祝料等申付まじき事)

(六三六号文書と同文)

七一〇 文化六年四月二十五日(寺下人年季者抱願、五人限御免の事) 千眼寺願書

四月晦日 勝手方問合

五月七日 郡奉行吟味

五月八日 勝手方申渡

七一一 文化七年七月十七日(家内召列十年中宿の願)

七月十八日(免許) 船手申渡

七二二 安永八年十一月(桜島燃に付、帰村し難き百姓共年季

又は永代召抱の事)

七二三 享和三年二月二日(十年季所御暇の願)

二月六日(免許) 船手申渡

七二四 享和三年十二月十九日(十年季中宿の願に付免許証文)

七二五 文化十一年二月十五日(浦町人他郷野町へ十ヶ年居住

の願)

二月十七日(免許) 勝手方申渡

抱者願案文

七二六 元文三年十月案文(船手)

七二七 往年抱案文(船手)

七二八 郡方案文

七二九 郡方往年抱案文

外抱者

七二〇 享保四年八月(諸奉公人の請人欠落又は不屈の事)

九月二十四日 家老申渡

七二一 享保十一年四月(武家方の家来奉公人の下請に立出入

有之節取計方)

六月十三日 家老申渡

七二二 御触書寛保集成(二三三二)

享保十五年二月(奉公人取逃欠落多く不埒に付、人宿

組合相定取締の事)

御触書寛保集成(二三三七)

七二三 享保十五年二月(八木下値に付諸奉公人給金引下の事)

三月 家老申渡

御買入人足

七二四 享和二年八月二十九日(御厩御買入人足の事)

七二五 戊八月(御厩御春屋御買入人足の事)

七二六 八月二十九日(御買入人足割合の事)

七二七 戊八月二十九日(三町屋敷持名頭畦掛出銀の事)

(七三八号文書と同文)

七二八 享和二年十一月二日(御買入人足割合の事)

七二九 寛政四年子三月(江戸作事奉行らより御国人足の儀に

付吟味申出)

七三〇 文化八年一月(御買入人足割合の事) 寺社奉行調べ

二月十八日 船奉行調べ

閏二月十七日 家老申渡

七三一 文化十一年十一月十四日(御買入人足不足に付割合替

の事)

七三二 天明四年五月(町家家作の事)

七三三 天明五年七月十二日(町人共願事、都て町奉行へ申出

の事)

七三四 正徳元年十月(岡町を野町と唱替の事)

七三五 天明七年四月(町奉行町中巡見の次第)

七三六 町奉行初て巡見・町中巡見の次第

七三七 享保五年一月二十七日(城下町敷の事) 寛政元年上使

御答書

七三八 享和二年八月二十九日(三町屋敷持名頭畦掛出銀の事)

(七二七号文書と同文)

御触書寛保集成(二三三五)

七三九 天明八年六月(町家名頭の事)

七四〇 安永五年五月(下泉町の事)

七四一 安永八年(町人鑄入長脇差御法度の事)

七四二 安永八年六月(他国使者等の節脇差帯の事)

七四三 安永五年三月二十一日(名字帯刀御免)

七四四 安永八年六月(御役人町内通路の節、慇懃に式対致す
べき事)

七四五 安永八年六月(町中へ中宿の者鑄入脇差無用の事)

七四六 安永八年六月(浦人野町人脇差帯停止の事)

七四七 宝曆元年二月(西田町困窮に付水主役御免の事)

七四八 町人願書次書の事

七四九 天明二年十一月(町家普請修補の事)

江戸町定

七五〇 寛文八年三月(町方屋作等儉約の事)

令条記卷三十一(四二二)

七五一 (寛文八年カ)申三月二十日(刀御免町人並新吉原界
町御掟)

令条記卷三十一(四二三)

七五二 延宝三年五月十二日(駕籠御制禁)

令条記卷三十一(四二四)

七五三 延宝六年八月(茶店女並衣服御定)

令条記卷三十一(四二五)

七五四 (天和三)亥正月二十八日(呉服所へ被仰渡)

令条記卷三十一(四二六)

七五五 貞享三年六月十八日(呉服所へ被仰渡)

令条記卷三十一(四二九)

七五六 大坂町中諸法度並追加

令条記卷二十一(二六一)

七五七 吉利支丹宿の事

令条記卷二十一(二六二)

七五八 盗人宿の事

令条記卷二十一(二六二)

七五九 他町に有之家の事

令条記卷二十一(二六二)

七六〇 浪人宿の事

令条記卷二十一(二六二)

七六一 博奕諸勝負宿の事

江戸町中定

七六二 明暦元年十月十三日(江戸町中式目)

令条記卷二十二(二六六)

七六三 町奉行所役人手前の控

令条記卷二十二(二七二)

七六四 年頭院使の事

令条記卷二十二(二七二)

七六五 江戸中辻番所の事他

令条記卷二十二(二七二)

市立

七六六 延享四年卯八月重富より六斎市立願出、柏原浦先例有
之、九月十日免許の事

七六七 明和四年亥伺留(市木湊町毎月市立願出、免許の事)

七六八 文化八年十一月十三日(鹿屋高須浦町一ヶ月に六度ッ

諸職屋

ツ市立願出、吟味有之御免の事)

七六九 文化五年二月二十七日(諸職屋御礼銀定)

七七〇 文化五年二月二十八日(味噌酢醬油屋御礼銀定)

七七二 文化四年(酒屋焼酎屋御礼銀定)

七七三 天明三年卯八月四日(焼酎屋取締の事)

七七四 寛政二年六月十二日(焼酎屋御礼銀問合)

七七五 寛政十年六月十五日御証文(焼酎屋御礼銀の事)

七七六 文化九年正月二十九日(鬻附屋御礼銀重上納の事)

七七七 文化九年二月二日(鬻附屋願申出の節支配の事問合、付張紙)

文化九年正月十八日(鬻付煉方商売願出の事)

二月朔日 船奉行届

三月十二日 勝手方申渡

七七八 元禄十四年水引寺田堅吉日帳(酒造商売免許)

七七九 享和二年八月(質屋取締の事)

七八〇 延享二年閏十二月二十五日(質屋願出、免許、御礼銀被仰付の事)

七八一 文化五年五月十八日(郡奉行より質屋値下げ申出に付、三町役々より吟味、利足是迄通りに申出の事)

七八二 享保二年六月(証拠相立て質借致すべき事)

七八三 明和三年(盗物質入取締の事)

七八四 明和三年(質屋取締の事)

七八五 明和二年(直売沖売禁止の事)

録目書文

魚屋

七八五 明和二年(直売沖売禁止の事)

百工

七八六 元和元年九月十八日(下納屋商売方役儀の事)

七八七 文化八年三月十三日(魚屋願出の事)

七八八 享保十二年八月九日(諸細工人職人切米の事)

(行間朱書 王制・月令「礼記」)

七八九 享保二十年九月二十九日(諸細工人切米定)

十月二十日 勝手方申渡

七九〇 諸職人御扶持米・賃金定

江戸諸職人定

七九一 宝永六年七月二十八日(諸職人賃金定)

七九二 享和三年閏正月(諸職人賃金定)

七九三 安永二年正月七日(織物稽古の事)

七九四 宝永四年十二月二日(諸職人仕業札方の事)

諸向人足

七九五 天明五年五月十七日(雇・買入人足の事)

七九六 正徳三年八月十五日(御城内出入人足目印札下の事)

七九七 文化二年三月二十七日・安永七年十一月晦日(江戸普請方人足の事)

七九八 宝暦十三年九月八日(死馬処分人足へ下賜銀以後下さ

れざる事)(五四八号文書と同文)

七九九 天明八年六月二十八日(御春屋御銭入夫・日雇人足一

ヶ年賃銭差引の事)

八〇〇 申六月二十五日(御銭入夫の事)

歴代制度 卷之十四

琉球国由来

八〇一 中山世鑑

八〇二 本田氏大島私考

琉球国

八〇三 琉球由来・地勢石高

八〇四 文化元年九月三日（琉球出物御注文九月中限の事）

九月五日 家老申渡

八〇五 琉球 「御問條御答書写」

八〇六 正徳三年五月（渡唐銀、返上物と唱替の事）

八〇七 安永二年巳七月（中城王子上国、御目見の次第）

八〇八 巳八月十三日（王子御目見登城通路筋の事）

八〇九 安永二年十二月（琉球館へ御入の次第）

八一〇 文化寅十二月（琉球滞納銀の事）

八一 天明七年十月二十八日（琉球館への御使を上使と唱替の事）（八一九号文書と同文）

八二二 天明七年二月（音楽唐踊琉球踊の事、通詞差添の事）

八二三 天明四年三月（琉球仮屋を琉球館、琉球仮屋守を琉球館聞役と唱替の事）

八二四 寛政元年五月（琉球凶年に付出来の内申受）

琉球教条

八一五 琉球教条

「首里王府仕置 御教条」

琉球法度

八一六 寛政二年五月（琉球支配の法度条々）

八一七 天明七年七月（琉球人脇徘徊等の事）

八一八 天明六年十二月九日（琉球人応対定の事）

八一九 天明七年十月二十八日（琉球館への御使を上使と唱替の事）（八一一号文書と同文）

八二〇 明和九年十一月九日（琉球仮屋へ用事無く出入致まじき事）

八二一 宝永七年十二月（今度琉球使者御会釈結構被仰付候事）

八二二 寛政十年十月（琉球へ金銀銭持渡厳重取締の事）

八二三 天明五年十月二十五日（琉球へ金銀銭持渡差留の事）

八二四 安永子（九年カ）十一月（琉球へ積下錢高改の事）

八二五 安永九年十一月（琉球仮屋荷物積入取締の事）

八二六 文化七年十月（帰帆の馬鑑船銭・鉄地カネ積下の事）

